

イワシ類成魚の分布生態の研究

(水産資源調査・評価推進委託事業)

(予算区分 受託 研究期間 平成7年度～)

担当：資源海洋科 高田伸二

【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁業資源の漁獲可能量（TAC）を決定し、資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられています。それを受け、重要魚種については資源評価が行われ、漁獲統計や生物情報等の収集が行われています。

イワシ類についても、沿岸に出現するイワシ類成魚の漁獲統計や魚体組成を調査し、その成熟実態と併せて回遊との関連を検討します。

【これまでに得られた成果】

(平成30年度の状況)

- ・ マイワシ太平洋系群の資源量は1980年代には1,000万トン以上の高水準でしたが、1980年代後半に入ると減少し、2002年以降は10万トン前後の低水準で推移しました。その後、2010年以降に増加傾向となり、2017年の資源量は240万トンと推定され、資源水準は中位と評価されました。
- ・ 県内主要21港におけるマイワシの水揚量も増加傾向にあり、2018年は直近10年間では、2017年に次ぐ水揚量でした（図1）。
- ・ カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2003年までは増加傾向でしたが、2003年の149万トンをピークに、その後、減少傾向にあります。2017年の資源量は14万トンと推定され、資源水準は低位と評価されました。
- ・ 県内主要21港におけるカタクチイワシの水揚量は、変動はあるものの減少傾向にあり、2018年は直近10年間で最も少ない水揚量でした（図2）。



写真 マイワシ(上)とカタクチイワシ(下)

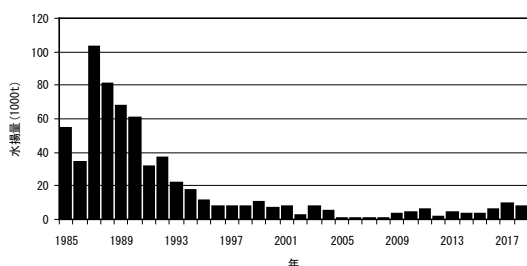


図1 県内マイワシ水揚量の推移

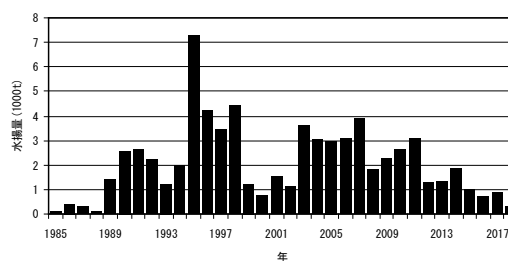


図2 県内カタクチイワシ水揚量の推移

【期待される効果】

- ・ 水揚量、体長組成、成熟状況等の生物情報を基に静岡県周辺海域における来遊機構や資源状態を把握することで、より精度の高い資源評価や資源管理目標について検討を行うことが可能となります。

【今後の計画】

- ・ 成熟実態と漁況の関係、県内と全国の漁況の関係について検討し、静岡県周辺海域におけるイワシ類来遊機構について把握します。

(作成 平成31年4月)